



炬火を掲げていざ謳う

No.39



# 我らの泉鳥取

2023年4月24日（月）

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府大阪市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

## 大公孫樹（オオイチョウ）の木

— ずいぶん大きくなりました —



左は令和4(2022)年11月25日現在のオオイチョウ。

上の写真は昭和60(1985)年、7期生卒業アルバムから。赤い○で囲んだ部分がイチョウの苗木である。

泉鳥取高校は四季折々の花に囲まれた学校で、3月～4月のサクラにシダレザクラ、4月中下旬から5月にかけてアメリカハナミズキ、5月のツツジ、6月のアジサイ、初夏のユリ、真夏のヒマワリ、秋は紅葉にコスモスと四季折々の花と植物が心を癒してくれます。

中庭一番奥にうっそうと茂るオオイチョウ。2本つがいになっており、人の手で植えられたのはまちがないようです。卒業生の記念植樹なのかと調べていますが、木の周りに何の看板もないため、いつ、だれが植えたのかつまびらかではありません。しかし、泉鳥取高校では、自転車置き場のヤシの木と並んで、最も大きい木のひとつとなっています。

右の写真は昭和60(1985)年、7期生の卒業アルバムです。泉鳥取の卒業アルバムでは定番となっている、学年全員の写真の一部を切り取りました。そ

のうち、赤い二重丸で囲んだ部分が、現在イチョウの立っている場所です。細い木が確認できます。これがどうやらイチョウの木のようなようです。

泉鳥取高校にはこれまでの卒業生や周年行事で多くの木が植えられています。正門横の桜は、5期生の記念植樹ですし、その向かいのフェニックスは10周年の記念植樹、裏門横の桜の木は、開校の記念に第1回入学式で植樹されたものです。

春のサクラから冬のツバキまで、これまでの技能員さんの丹精により四季折々の花や植物に彩られた学校となりました。

